

Takanashi

Environmental Report 2024

タカナシ環境報告書2024

Takanashi



トップメッセージ

『お客様ありてこそ タカナシ』

タカナシは、おいしくて、安全・安心、環境にやさしい商品をご提供することにより、「お客様の元気な笑顔と健康のために」お役に立ち続けたいと願っております。そのためにも、生乳生産者の方々からお客様のお手元に商品が届くまでのサプライチェーン全体における環境負荷低減を目指します。

私たちの思いは、ロゴマークの青いバラに込められております。毎年美しい花を咲かせるバラのように、私たちも多くのお客様や生産者の方々、近隣住民の皆様から必要とされる企業であり続けるため、タカナシグループが一丸となって、環境問題に取り組んでまいります。



タカナシ乳業株式会社
代表取締役社長

高梨 信芳

タカナシ環境方針

私たちは、牛乳・乳製品を中心とする食品の製造や販売を通じて皆様の健康づくりと新しい食文化づくりに奉仕する企業として、健やかな成長の糧となる自然の恵みが末永く子孫に受け継がれるよう、環境汚染の予防並びに環境負荷の低減と地球環境保全のために右記のことに努力してまいります。

▶ タカナシグループ環境目的・目標

タカナシグループではタカナシ環境方針の下、それぞれの組織が持つ業務目標に整合する形で環境マネジメントプログラムを展開し、組織として取り組むことが可能な環境目的・目標についての枠組みを与えるため、この全社目的・目標を定める。

環境マネジメントシステム

私たちは、環境保全にタカナシグループ全体で取り組むため、全員参加のマルチサイト方式を採用しました。工場、営業所、スタッフ部門が一つの環境方針の下、統一の環境マニュアルを運用して活動に取り組んでいます。また、各サイトでは本来業務で関わっている環境対策について、独自の目標として積極的に組み入れています。

1. 事業活動のプロセスにおいて消費する、あらゆる天然資源の有効活用に努めます。
2. 効率的な事業活動を促進する事により、環境負荷の低減、並びにプラスの環境影響へ、継続的改善としての取り組みを進めます。
3. 組織が決定した要求事項に対する順守義務を満たすとともに、内部・外部のコミュニケーションに必要なプロセスを確立し、実施し、維持します。
4. 組織は環境目的・目標の達成に必要なパフォーマンスを定め、その成果を確実にするための資

源を提供するとともに、管理層の責任領域における役割を支援します。

5. この方針を全従業員及びタカナシ環境マネジメントシステムの適用範囲に周知徹底し、地球環境保全活動に対する意識の啓発を行い、また必要に応じて社外に公開します。

※組織とは目的を達成させるための個人又は人の集まりで、会社及び会社組織、サイトの構成員に限定されるものではありません。

2016年10月1日制定

環境目的	環境目標
①エネルギー、水、原材料を主体とする天然資源消費の削減。	エネルギー、水、原材料や資材など天然資源の消費量削減に関して、数値目標を設定し取り組む。地球温暖化ガス又は排出炭酸ガスの排出量削減において、数値目標を設定し取り組む。
②食品廃棄物を主体とする、環境負荷が大きい廃棄物の排出削減。廃棄物の適正処理の確保とリサイクルによる資源の有効活用。	総廃棄物量、食品廃棄物量、環境負荷の大きい廃棄物量の削減について数値目標を設定し取り組む。資源有効利用のためのリサイクル、廃棄負荷の少ない処分、廃棄物の適正処理の確保に資する取り組みについて、目標を設定し管理を実施する。
③法規制及び自ら認識した順守義務の確実な遂行と適切な監視。	法規制の確実な順守、適切な順守義務の認識、適切な監視及び測定に資する取り組みについて、目標を設定し管理を実施する。
④確実なコミュニケーションの実施と適切な情報管理。	業務管理上の指示及び水平展開を含む、必要な情報が適切に管理・伝達・記録される、もしくはPDCAの活用に資する活動の目標を設定し管理を実施する。
⑤目標達成のために必要なパフォーマンスを得るためのプロセス管理、及び、継続的改善へのアプローチ。	組織の業務目標達成に取り組むプロセスの管理及び、そのプロセスにおけるリスクと機会を的確に評価し、最適な管理・運用に資する取り組みについて、目標を設定し管理を実施する。
⑥積極的に環境を考慮した商品開発、設備変換、生物多様性の保護を含むプラスの環境影響のための行動推進。	商品・サービスのライフサイクルにおける環境負荷を認識し、その低減を推進するために実施する教育を含む人材・設備・業務システム等の導入における目標を設定し管理を実施する。自然環境保護や生物多様性、地域共生に関連する取り組みについて、計画を策定し行動する。

ISO14001の取得

タカナシグループでは、企業の社会的責任、省エネ・省資源の取り組みによる経営効率の改善、またお客様や利害関係者のご要望などにより2001年より環境マネジメントシステム (ISO14001) を導入、認証を取得しました。本活動を通じて、環境への取り組みに対する認知度の向上、汚染防止対策、目標達

成や継続的改善に向けた運用、システム運用から得られたパフォーマンス向上など、さまざまな成果を得ることができました。認証取得から20年を経過した現在、法規制順守体制の整備、リスク及び機会への取り組み、環境側面の見直し、目的・目標設定の改善などを実施し、環境マネジメントがより有効に機能するよう努力しています。

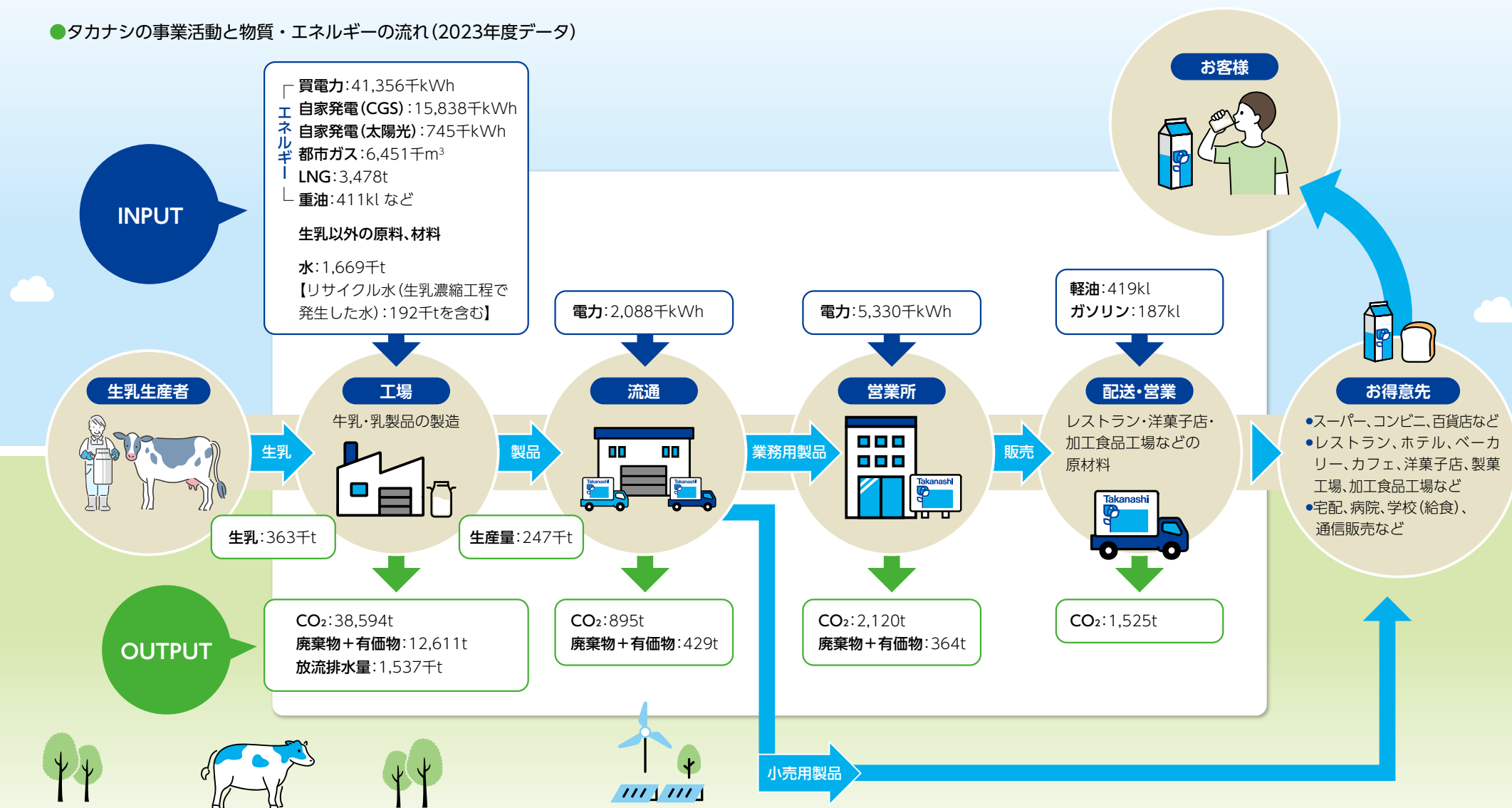
タカナシの事業活動と環境との関わり

製品をお客様にお届けするまでの過程で、多くの原材料と、エネルギーや水を使用します。

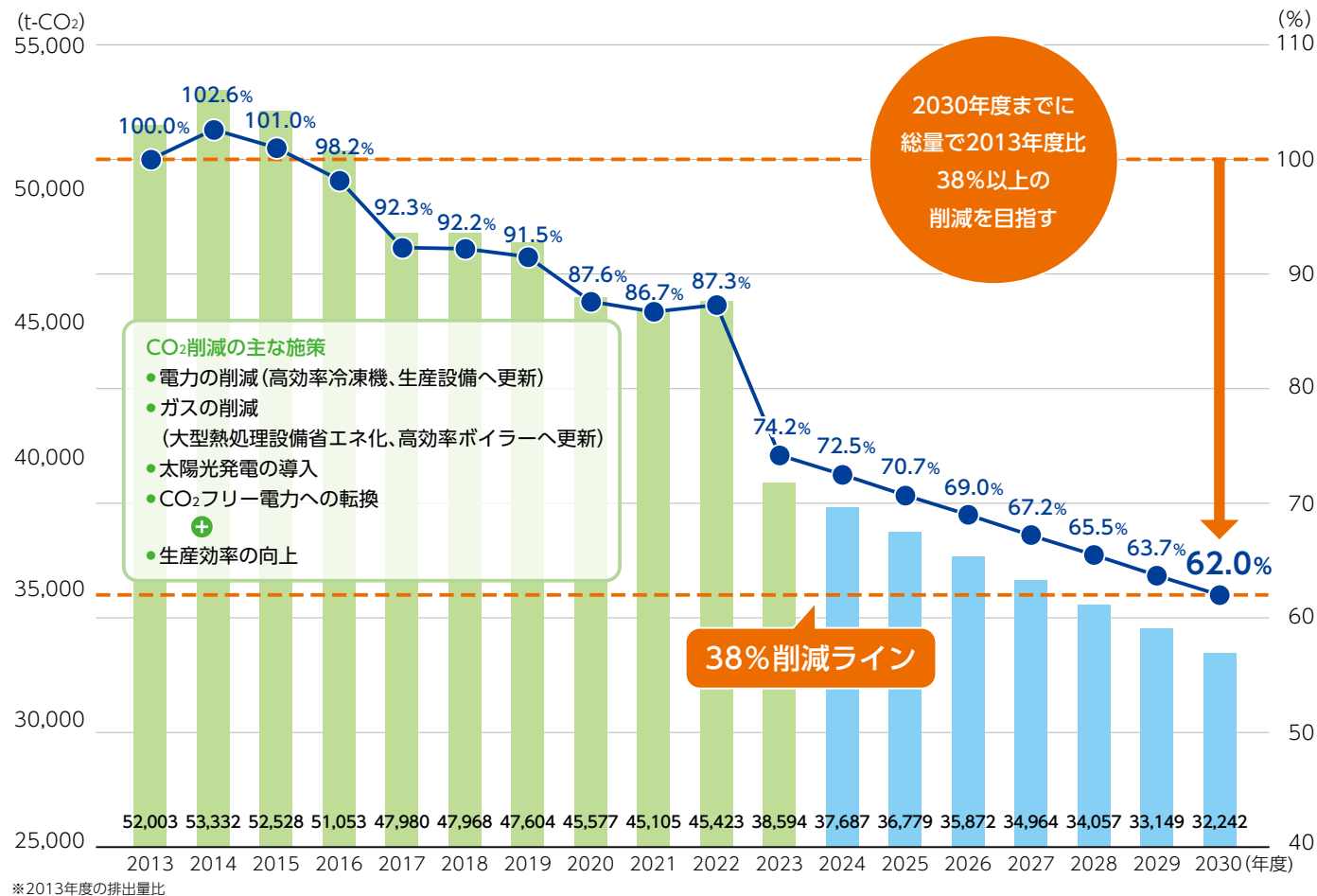
製品をつくる過程や流通・配送の過程において廃棄物や排気ガスなどを排出します。

タカナシグループとして連携した取り組みや、一人ひとりが職場での環境の関わりを意識した取り組みを進めています。

●タカナシの事業活動と物質・エネルギーの流れ(2023年度データ)



2030年度までのタカナシ乳業脱炭素目標 ～エネルギー起源のCO₂排出量～



タカナシ乳業では、2030年度までに、エネルギー起源のCO₂排出量を総量ベースで2013年度比 **38%以上**の削減を目指します。

老朽化設備更新、高効率設備の導入、及び生産効率の向上を図ることで省エネ活動の推進を行います。

再生可能なエネルギーの導入によりエネルギーの脱炭素化も推進していきます。

- 2013年度時点では52,003(t-CO₂)であったものを2023年度時点では38,594(t-CO₂)まで削減しております。
- 2023年度では2013年度比74.2%となります。

脱炭素への取り組み

タカナシ乳業は、脱炭素化を目指し、再生可能エネルギー発電設備の導入、及びエネルギーの高効率化を進めています。群馬工場では2023年1月、北関東工場では2023年11月に太陽光発電を導入しました。



群馬工場の太陽光発電設備



北関東工場の太陽光発電設備

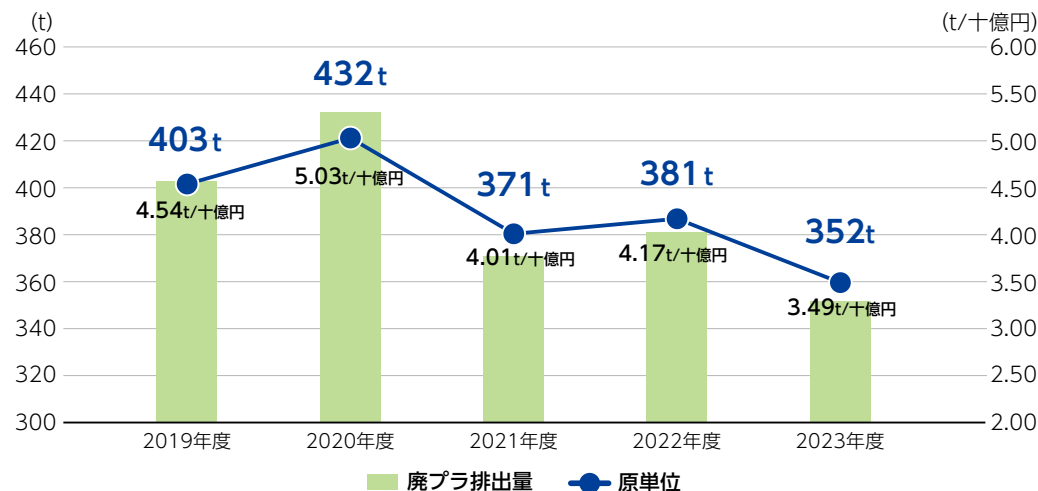


北海道工場 LNG(液化天然ガス)化

※燃料を重油からLNGに転換することで、CO₂排出量を削減しました。

2023年度タカナシグループ プラスチックの3R取り組み

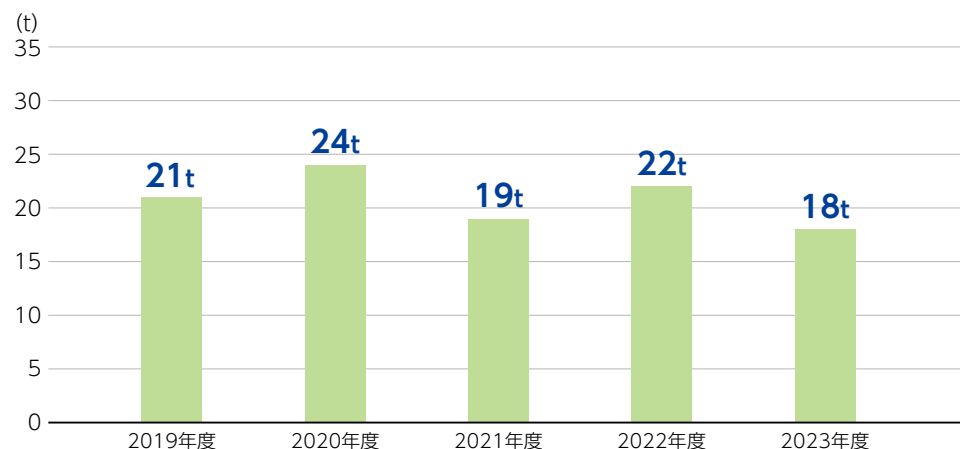
●タカナシ乳業 廃プラスチック排出量



タカナシ乳業
2024年度目標

廃プラスチック排出量を売上原単位当たり
前年度比2%削減する

●タカナシ販売 廃プラスチック排出量



🔍 学校給食向けの牛乳パックに バイオプラスチック使用容器を採用

タカナシの学校給食向けの牛乳パックは、材料の一部にバイオプラスチックを配合した紙容器を選定しています（持続可能なサトウキビ認証「BONSUCRO認証」を受けたバイオプラスチックを使用）。持続可能な生物資源を使用することで、脱炭素へ貢献しています。



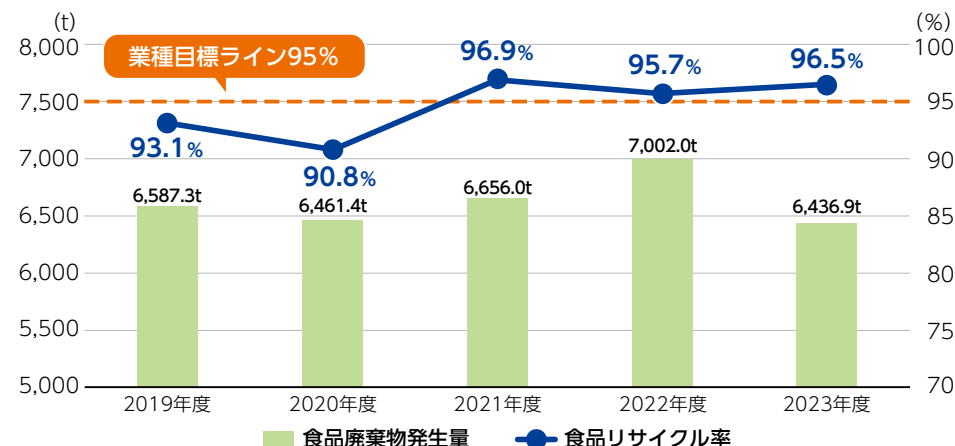
🔍 一工夫で環境に配慮した3Rを推進

製品搬送時の固定に使用するフィルムは、リサイクルを行う際にかさばり運搬効率悪化につながる事から、圧縮して運搬効率を向上させCO₂排出削減を進めています。また、素材毎に細かく分別する事により、焼却やサーマルリサイクル処理を行っていたものを、ケミカルリサイクル、マテリアルリサイクル処理へ転換し、より環境に配慮した取り組みを進めています。

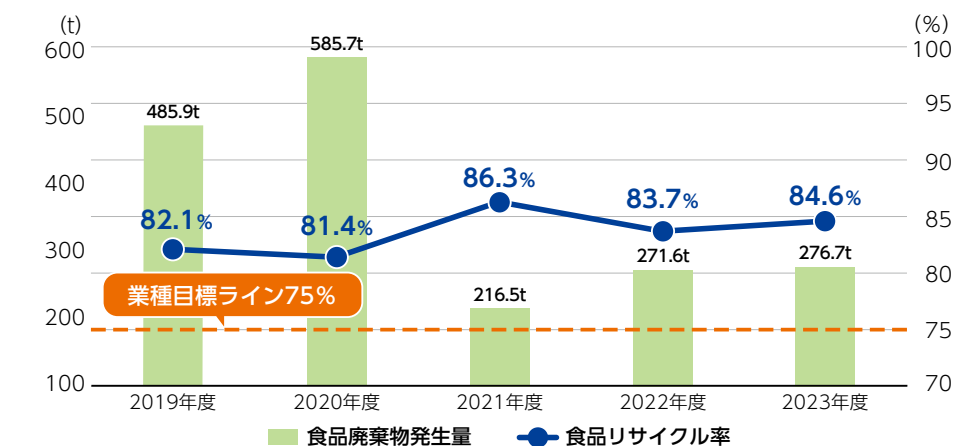


食品リサイクルの推進

●タカナシ乳業 食品廃棄物発生量とリサイクル率



●タカナシ販売 食品廃棄物発生量とリサイクル率



農林水産省より令和元年7月12日に公表されました新たな基本方針では、2024年度(令和6年度)までに業種全体で食品製造業は95%以上、食品卸売業は75%以上を達成するよう目標が設定されています。2023年度はタカナシ乳業(食品製造業)では96.5%、タカナシ販売(食品卸売業)では84.6%とグループ全体で肥料化、飼料化、メタン発酵を行うリサイクル処理業者の選定を進め、グループ全体での目標を達成しています。

TOPIC

霧多布湿原ナショナルトラスト・ボランティア活動



タカナシ乳業は、2000年より霧多布湿原ナショナルトラスト・ボランティア活動に参加しております。新型コロナウイルスの影響を受け参加を断念した時期もありましたが、2023年より再開しており、2024年は10月26日(土)に仲の浜木道の柵整備を実施いたしました。

かながわ水源の森林づくり・ボランティア活動



タカナシ乳業は、2000年よりかながわ水源の森林づくりの森林再生パートナーに参加しております。大切な水の供給源である水源地域の森林を活力のある状態に保持する活動は非常に重要となります。